

# 若い力を地域のために

## ■ 里山元気塾 ■ 中山間地域応援隊

里山育ちの大根が抜き放題

大学生がイベントを企画

11月26日、上菅地区で2つのイベントが開かれました。  
「里山ものづくり大学」、そして「里山祭りin日野」。  
このイベントは、町外の若者たちと地元住民が協力して運営されたものです。  
今、若者たちの力が地域おこしの大きな活力になってきています。



立派に育った大根に大満足！

奥日野自慢の里山で農産物や加工品の生産を体験してもらおうと毎月開かれている里山元気塾（小谷博徳塾長）主催の「里山ものづくり大学」の11月講座が、11月26日、上菅地区内で開かれました。

今回の講座は、参加費500円で大根が抜き放題ということ、町外から約40人が参加しました。

会場となった畑には白首大根と青首大根合わせて約2000本が顔をのぞかせ、参加者は両手に抱えきれないほどの大根を収穫しました。境港市から参加した女性は「ものづくり大学には初めて参加しました。今夜はおでんで大根を味わおうと思います。こんな催しがあればまた参加したい」と話していました。



ものづくり大学に併せて、11月26日、「里山祭りin日野」が菅福食文化伝承館（上菅）で開かれました。

このイベントを企画したのは、鳥取環境大学の学生で結成された「中山間地域応援隊」。日野町へ多くの人を呼び、中山間地域の住人と外部の人たちとの文化的交流を目的に企画されたこのイベントのために、応援隊のスタッフは何度もまちへ足を運び、準備を重ねてきました。

イベントでは、日野町産の食材を使った具だくさんの味



町外からもたくさんの人出が

噌汁と炊きたたのご飯が無料サービスされたほか、竹とんぼ作りなどの工作コーナーや昔遊びコーナー、焼きいも販売などのにぎわいました。

各コーナーには、地元住民もスタッフとして参加し、学生スタッフと協力して運営する姿が見られました。

大根抜き後に会場を訪れた参加者も多く、「たくさん大根が取れたうえにおいしいご飯も食べられて満足」など、好評の様子でした。



好評の食事サービス。青竹を使った箸と食器（写真右）も学生たちの手づくり。



偶然の出会いが活動の始まり



里山元気塾 広報担当  
三嶋俊一さん  
(米子市在住)

**里山元気塾との出会い**  
高校時代の恩師だった塾長と米子市内ではったり出会い、菅福元気邑のホームページの管理を頼まれたのがきっかけで関わることになりました。

**今の活動内容**  
会社勤めのかたわら、里山元気塾の広報活動をしています。新聞への折り込み広告を作ったり、ホームページを通じて情報を発信しています。

**日野町民の印象**  
とても明るく、接しやすいい人たちだなあと感じました。今回のようなイベントでも、町外から来た人たちが溶け込みやすい雰囲気を作ってくれるのでとても感謝しています。

**まちのこれからについて**  
日本の国土の多くが中山間地域なので、中山間地域の発展がすなわち地域の発展になると考えています。応援隊とは、来年4月に田植えイベントを計画中です。今回は上菅地区での開催でしたが、これからはいろいろな団体を巻き込んで、まち全体で大きなイベントができるようにしていきたいですね。

■ 仕掛け人に聞く

里山元気塾と中山間地域応援隊を代表して、お二人にお話を伺いました。

**出身地**  
今は鳥取市に住んでいますが、出身地は岡山県真庭市(旧美甘村)です。日野町は距離も近いし、同じ中山間地域ということで親近感がありますね。

**中山間地域について思うこと**  
地域の特性として、良い意味でも悪い意味でも集落

内つながりが強すぎると思います。若者や外部の人たちとのつながりがもつとあればと思います。

**応援隊のこれから**  
最終目標は、この応援隊がなくなることです。というのは、今は私たちが地域をおこしお手伝いをさせていたのですが、いざれは地域住民だけの力で地域を元気にし、自立してほしいと願っています。

ただ、メンバーが応援隊として活動できるのは、在学している4年間だけ。今後活動を引き継いでくれる学生がいるのかどうか不安ですが、私たちの活動が地域の自立の力になれるようにがんばりたいです。

**応援隊結成のきっかけ**  
大学の授業で過疎・高齢化など中山間地域の現状を知り、地域活性化の力になりたいと思いついて、今年の2月に結成しました。現在メンバーは18人で、地域おこしのイベントを運営しています。第1回目のイベントとして、鳥取市の神戸地区でウォークラリーをしました。



中山間地域応援隊 代表  
中川正樹さん  
(鳥取環境大学環境情報学部  
環境政策学科2年生)

応援隊がなくなることが最終目標

**取材を終えて**  
元気塾と応援隊。共通しているのは、「地域のために自分たちは何ができるのか」という思い。その思いが人どうしのつながりになって、大きな力になっていく。そんなことを感じた一日でした。



イベントをつくり上げた地元・学生スタッフたち